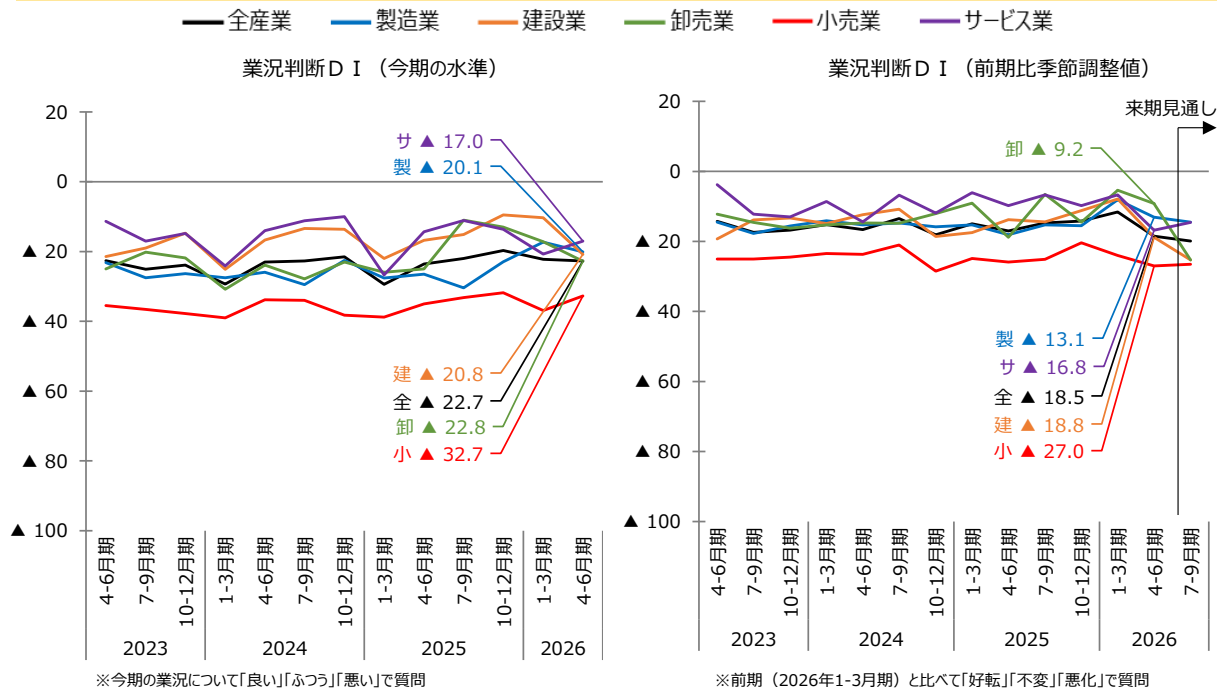


第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 中国

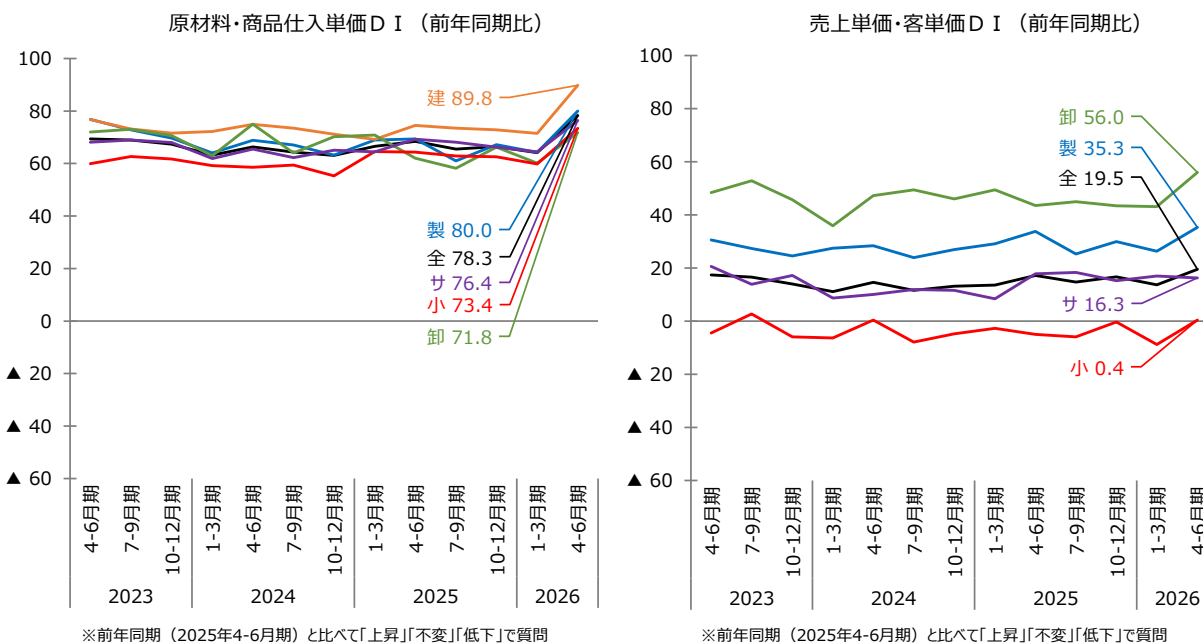
1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年1-3月期）より0.5ポイント減の▲22.7と2期連続してやや低下した。産業別にみると、小売業、サービス業で上昇し、建設業、卸売業、製造業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より14.2ポイント増の78.3と2期ぶりに大幅に上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.8ポイント増の19.5と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、製造業で上昇し、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2026年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

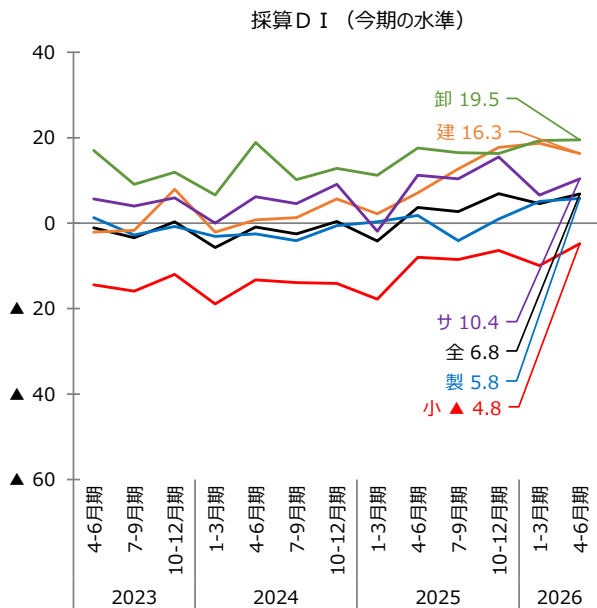
今期の調査対象企業数：18,834 有効回答企業数：17,734 有効回答率：94.2% うち、中国：1,654企業

※本資料の集計対象の都道府県は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県です。

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 中国

3. 採算

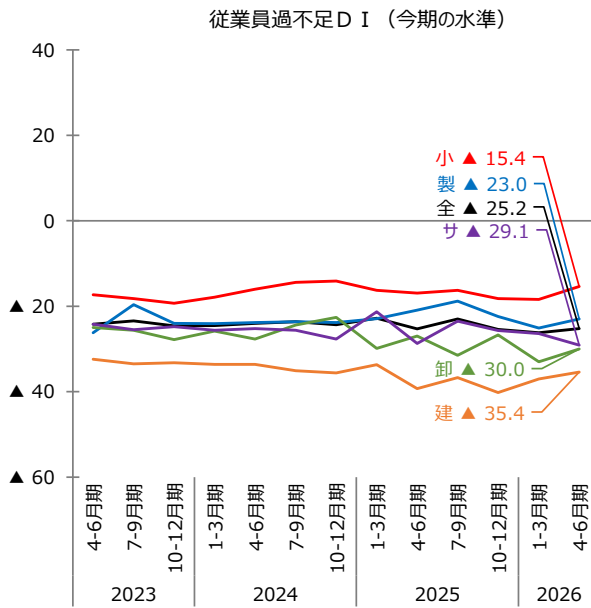
採算DIは、全産業で前期より2.2ポイント増の6.8と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業、製造業、卸売業で上昇し、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.0ポイント増の▲25.2と3期ぶりに増加した。産業別にみると、卸売業、小売業、製造業、建設業で上昇し、サービス業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 中国の中小企業の声

| 業況判断の背景 | | 業種 |
|---------|--|----------------------------|
| 現状 | イラン情勢の影響により、包材関係の価格が約3割上昇している。価格転嫁を進めているものの、元々比較的単価が高いので、購買の優先順位が下がり、買い控えが生じているように感じる。 | 製造業 味そ製造業 |
| | 昨年からの建築基準法改正、中東情勢の悪化による材料費の高騰等による坪単価の上昇、長期金利の上昇等で新築工事が減り、業界全体が厳しい状況にある。 | 建設業 木造建築工事業 |
| | 中東情勢による仕入商品の遅延等により、販売できる商品が限られている。また、得意先からの受注に対して対応できていない。 | 卸売業 鉄鋼一次製品卸売業 |
| | 仕入単価の値上げが何度もあり、ここ最近は今までと比較してかなり大幅な値上げのため、自社商品の値上げが追いついていない。既存のお客様の購買力も低下している。 | 小売業 その他の各種食料品小売業 |
| | 売上・客数とも前年を上回った。観光客に加え、近隣市内の宿泊先不足による平日のビジネス利用が増加。利用目的や宿泊ニーズの変化を強く感じる。 | サービス業 他に分類されない宿泊業 |
| 見通し | 工賃仕事なので単価は変わらないが、徐々に軽油・消耗品等が高騰しており、営業利益が減少している。また、繊維についても、石油由来の製品もあり、ナフサ問題が今後どうなるか先行きが不安である。 | 製造業 他に分類されない衣服・繊維製身の回用品製造業 |
| | 中東情勢の影響で出荷が止まっている材料、資材が有り、先行きが見えない。今すぐの影響はないが、長引くと工事の受注、施工に影響が出る可能性がある。 | 建設業 道路標示・区画線工事業 |
| | 中東情勢悪化の影響で取扱商品の大半が受注制限、価格上昇が3月上旬より起き、情勢が沈静化しても暫くはこの状況が続くそうで今後の見通しが心配。 | 卸売業 他に分類されないその他の卸売業 |
| | 現時点で大きな変動はないが、ナフサの影響等が懸念されることから、製品入庫が追いつかず、在庫の減少が懸念される。仕入れ値の上昇も懸念され、収益悪化、業況悪化の見通し。 | 小売業 医薬品小売業(調剤薬局を除く) |
| | 島根原発2号機の定期検査が9月まで予定されているので、それまでの期間は業況は良いと思う。9月以降の業況はタクシー業界として悪化すると予想される。 | サービス業 一般乗用旅客自動車運送業 |

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)